牛 肉 情 勢

4月11日 更新　JA全農ミートフーズ株式会社

項目		内容
供給	1.国産	○ 2月の成牛と畜頭数は、82.9千頭と前年を上回った(前年比106.9%)。 内訳を見ると、和牛:36.1千頭(前年比107.5%)、交雑牛:19.6千頭(同110.5%)、乳牛去勢:10.7千頭(同93.4%)となった。 ○ 3月の成牛と畜頭数は、速報値(3月31日まで集計)で90.7千頭と前年を上回った(前年比100.4%)。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(3月29日公表)によると、3月の出荷頭数は、乳用種が減少するものの、和牛および交雑種で増加が見込まれることから、 前年同月を上回ると予測する。4月は、全品種で出荷頭数の増加が見込まれることから、前年を上回ると予測する。 (3月94.0千頭(前年比103.5%)、4月97.8千頭(前年比105.2%)) そのため、3か月平均(2月～4月)でも、出荷頭数91.8千頭(前年比105.3%)、生産量29.4千ﾄﾝ(同106.1%)と前年を上回る予測となっている。
	2.輸入	○ 2月の輸入通関実績は、全体で38.0千ﾄﾝと前年を上回り(前年比100.6%、前月比95.2%)、内訳ではチルド;13.3千トン(前年比81.1%、前月比82.9%)、 フローズン;24.7千ﾄﾝ(前年比115.5%、前月比103.5%)となった。輸入相手国別では、チルドは米国を除き減少した。 一方でフローズンは、米国からのショートプレートが伸長し大きく増加し、カナダも前年を上回ったが、その他の国からの輸入が減少した。 (参考:形態別相手国別輸入数量) チルド　　:米国8.6千ﾄﾝ(前年比107.2%)、豪州3.8千ﾄﾝ(同60.8%)、カナダ0.4千ﾄﾝ(同52.8%)、メキシコ0.2千ﾄﾝ(同46.6%)、ニュージーランド0.1千ﾄﾝ(同27.5%) フローズン :米国10.4千ﾄﾝ(同167.8%)、豪州8.0千ﾄﾝ(同88.4%)、カナダ3.0千ﾄﾝ(同126.4%)、ニュージーランド1.7千ﾄﾝ(同95.2%)、メキシコ0.9千ﾄﾝ(同89.1%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドの輸入量は、国内需要の低下等から3月、4月ともに前年を下回ると見込んでいる。フローズンも同様の影響により、 3～4月合計では下回る(3月は現地価格の高騰等から前年度の輸入量が減少していたため上回る)と見込んでいる。3か月平均でも、チルド・フローズンともに前年同期を下回ると見込んでいる。 令和5年3月　合計;35.1千ﾄﾝ(前年比103.5%)、チルド;15.3千ﾄﾝ(同90.7%)、フローズン;19.8千ﾄﾝ(同116.4%) 令和5年4月　合計;49.4千ﾄﾝ(前年比80.3%)、チルド;17.6千ﾄﾝ(同85.9%)、フローズン;31.8千ﾄﾝ(同77.6%) 直近3か月(2月～4月)平均 合計;40.7千ﾄﾝ(前年比91.7%)、チルド;15.5千ﾄﾝ(同86.5%)、フローズン;25.2千ﾄﾝ(同95.4%)
需要	1.家計消費	○ 総務省発表の2月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり牛肉購入量は442g(前年比96.3%)、支出金額が1,554円(同98.9%)となり、 購入量および支出金額は前年下回った。(※2019年度同月比:購入量 89.8%、金額102.6%)
	2.小売動向 2月概況	○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の2月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,101億円(前年比100.9%、既存店ベース99.3%)と前年を上回った。 相場の高騰が続き、買上点数の伸び悩みは続いている。鍋商材は、月後半からの気温の上昇により伸び悩んだ。牛肉は和牛の動きが鈍く、豚肉は輸入品の価格高騰より国産に需要がシフトした。 加工品は前年並みだった店舗が多い。節約志向の高まりで週末の大型パックが好調だった。価格が訴求出来ず販売に苦心しており、売上高は確保したものの利益が出にくい状況。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した2月販売概況によると、畜産品の売上は846.9億円(店舗調整後で前年比98.0%)となり、前年を下回った。 牛肉、豚肉、鶏肉の動きは鈍かった。鶏卵の動きは良かったが、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。
	3.外食 2月概況	○ 日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査2月度結果報告によると、全体売上は前年比123.5%、2019年比では103.8%となった。コロナ感染収束傾向、気温の上昇、 マスク緩和の動きなどによる人流の増加が要因であるが、原料高と光熱費高騰等により値上げの影響もあり、実質利益の観点からは、依然として厳しい経営状況が続いている。 業態別; ①ファーストフード　前年比110.2%、2019年度比116.3%　キャンペーンやクーポン配布等が好評。迷惑動画が一部店舗の客足に影響したが、値上げによる客単価上昇により売上が伸びた。 ②ファミリーレストラン　前年比139.0%、2019年度比 95.1%　年明けから堅調な流れが続いており、気温上昇に伴い客足が伸びた。焼肉店は、団体客の戻りが見られ好調。 ③ディナーレストラン　前年比169.4%、2019年度比 88.9%　大規模宴会は戻らないものの、国内旅行の団体客やインバウンド客が少しずつ戻り売上上昇。人手不足は続いている。 ④居酒屋　前年比284.8%、2019年度比 61.4%　個人客やインバウンド需要の回復傾向に加え、企業等の大きめの宴会も少しずつ増加し、客足の戻りが回復基調。
	4.輸出	○ 2月の輸出実績は641.1t(前年比139.0%)と前年を上回った。香港向けが同約152%(約125t)、台湾向けが前年比約214%(約104t)と大きく増加したことに加え、 しばらく低迷していたカンボジア向けが前年比約246%(約118t)と増加したこと等から上回った。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、2月末の推定期末在庫量は154.9千ﾄﾝ(前年比116.1%、前月比99.8%)と前年を上回った。 内訳は、輸入品;142.6千ﾄﾝ(前年比119.4%、前月比99.5%)、国産品;12.3千ﾄﾝ(同87.7%、同102.5%)となり、輸入品は前年実績を上回ったが、国産品は下回った。 なお、今後の期末在庫の推移は、3月末;149.8千ﾄﾝ(同117.2%)、4月末;148.6千ﾄﾝ(同117.9%)と、前年を上回って推移すると見込まれている。
枝肉相場	1.R5年3月 速報値	○ 3月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;3月31日時点)は、和牛去勢A5が2,598円(前年比98.2%)、A4が2,274円(同94.6%)、交雑牛B3が1,458円(同95.3%)、 乳牛去勢B2が937円(同93.8%)であった。 ○ 3月の相場は、東京での桜の開花が昨年よりも早まったことや中旬以降のマスク緩和により宴会需要は回復基調だったものの、消費者の生活防衛意識は依然強く 和牛・交雑種とも前月は上回ったが前年は下回った。乳牛去勢牛は、ホテルなどから引合いが強まったことで需給が引き締まり前月は上回ったが前年は下回った。
	2.R5年 4月 予測	○ 4月の相場は、生活必需品の更なる値上げにより消費者の生活防衛意識は更に高まるとみられるものの、需要期であるGWを見据えた手当てや5/8に新型コロナ の分類が5類に引き下げられることで外国人の訪日規制が緩和され、更なるインバウンド需要が拡大する期待感などから、和牛・交雑は強含みに推移する見込み。 乳牛去勢牛は、内食需要の低迷により需要が軟調となっているため弱含みを見込む。

◎ 枝肉相場予想:東京市場【税込】

	2月実績		3月速報値		4月予測		5月予測	
・和牛去勢 「A-5」:	2,511円	(99.0%)	2,598円	(98.2%)	2,650円	(98.6%)	2,600円	(100.6%)
・和牛去勢 「A-4」:	2,190円	(96.8%)	2,274円	(94.6%)	2,350円	(94.9%)	2,300円	(97.7%)
・交雑去勢 「B-3」:	1,370円	(96.1%)	1,458円	(95.3%)	1,500円	(93.8%)	1,450円	(90.5%)
・乳牛去勢 「B-2」:	913円	(91.8%)	997円	(93.8%)	950円	(84.0%)	950円	(85.7%)

部分肉相場	1.R5年 4月 予測	◎ 首都圏仲間価格【税抜】　【和牛:4等級】　【ホルス:2等級】　【交雑牛:3等級】

	【和牛:4等級】	【ホルス:2等級】	【交雑牛:3等級】
・カタセット(スネなし)	3,170円	1,900円	2,200円
・ロースセット(ヒレなし)	6,600円	3,100円	4,400円
・モモセット(スネなし)	3,800円	1,950円	2,400円
・トモバラ	2,200円	1,200円	1,460円

備考

○国内生産量の推移(単位:千頭・%)

暦年	和牛計		交雑牛計		乳牛去勢計		成牛計	
	頭数	前年比	頭数	前年比	頭数	前年比	頭数	前年比
R1年	457.8	101.1	236.7	94.9	167.9	94.4	1,038.6	98.8
R2年	477.2	104.2	227.8	96.2	161.6	96.2	1,047.1	100.8
R3年	483.1	101.2	228.9	100.5	154.5	95.6	1,054.6	100.7
R4年	490.2	101.5	248.6	108.6	140.8	91.4	1,083.1	103.0
R4年　11月	53.9	102.3	25.1	109.2	12.1	91.4	111.1	104.4
R4年　12月	46.9	99.1	23.0	107.8	11.2	90.1	98.6	101.3
R5年　1月	36.1	102.8	20.0	107.3	10.4	89.7	83.9	103.1
R5年　2月	36.1	107.5	19.6	110.5	10.7	93.4	82.9	106.9

※成牛計は、乳牛雌やその他品種も含まれるため数字が一致しない

○輸入量の推移(単位:千ﾄﾝ, %)

暦年	輸入数量合計		チルド数量		フローズン数量	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
R1年	615	101.3	275	98.6	340	103.6
R2年	600	97.6	262	95.1	339	99.5
R3年	585	97.4	264	100.9	321	94.7
R4年	560	95.4	217	83.0	343	104.3
R4年　10月	48.6	88.1	14.6	71.0	34.1	98.2
R4年　11月	39.4	92.5	17.6	107.2	21.8	83.2
R4年　12月	37.4	81.9	15.5	74.3	22.0	88.3
R5年　1月	39.9	98.8	16.1	98.4	23.8	99.0
R5年　2月	38.0	100.6	13.3	81.1	24.7	115.5

＊財務省:
通関実績

○総務省:家計消費量(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り				チルド	フローズン	合計	前年比
	数量	前年比	金額	前年比	数量	数量		
R1年	6,558	97.6	21,178	96.8	2,066	2,274	4,339	121.9
R2年	7,199	109.8	23,677	111.8	2,341	2,503	4,845	111.6
R3年	6,748	93.7	23,210	98.0	3,490	4,388	7,879	162.6
R4年	6,232	92.4	22,355	96.3	3,737	3,717	7,454	94.6
R4年　11月	456	92.9	1,731	103.0	346.0	341.6	687.6	85.9
R4年　12月	652	90.3	3,084	103.4	392.7	485.3	878.1	93.3
R5年　1月	491	90.3	1,783	100.1	205.8	225.4	431.1	93.5
R5年　2月	442	96.3	1,554	98.9	314.3	326.8	641.1	139.0

○輸出量の推移(単位:ﾄﾝ、%)

○市況の推移:　東京市場(税込み、単位:円/kg、%)

暦年	和牛去勢A-5		和牛去勢A-4		交雑牛去勢B-3		乳牛去勢B-2	
	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比
R1年	2,732	97.3	2,408	97.4	1,626	106.7	1,016	97.8
R2年	2,459	90.0	2,103	87.3	1,398	85.9	924	91.0
R3年	2,702	109.9	2,427	115.4	1,554	111.1	1,004	108.6
R4年	2,607	96.8	2,348	96.9	1,523	98.1	1,042	102.4
R4年11月	2,649	97.6	2,377	96.4	1,506	103.6	1,115	108.0
R4年12月	2,688	95.0	2,399	93.1	1,583	102.6	1,029	94.9
R5年1月	2,553	97.7	2,291	97.7	1,468	100.1	922	90.0
R5年2月	2,511	99.0	2,190	96.8	1,370	96.1	913	91.8
R5年3速報値	2,598	98.2	2,274	94.6	1,458	95.3	997	93.8

農水省食肉流通統計
(速報値は農畜産業振興機構が公表する東京市場の平均枝肉価格)